

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12464

研究課題名（和文）コロナ禍における観光に対する地域住民の意識と問題解決手法の提案

研究課題名（英文）Proposal of Problem-solving Methods for Resident's Awareness for Tourism during COVID-19

研究代表者

李 昭知（Lee, Soji）

東海大学・国際文化学部・助教

研究者番号：30755210

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、コロナ禍において観光に対する地域住民の意識に基づいて、持続的な観光に向けた肯定的な解決策を提示することを目的とした。具体的には、SNSやアンケートなどのデータに基づいて、観光客および地域住民にとって肯定的な問題解決手法を提案した。具体的には、第一に、SDL (Service Dominant Logic) の観光分野への適用であり、第二にコロナ禍におけるレジリエンスの分析である。結果として、「共創」を表現するキーワードがより肯定的な感情を生み出すことを定量的に実証した。また、人々は困難な状況においても新たな活動に繋げる手法を現実の場面で実践していることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、観光における地域住民の意識を明らかにし、問題解決に向けた肯定的な解決策を提示した点で、学術的に重要な意義を持つ。具体的には、第一に、観光に対して地域住民が肯定的意識となる関係性を提示できた。第二に、SDL (Service Dominant Logic) を観光分野へ適用でき、サービスの視点を導入できた。第三に、コロナ禍におけるレジリエンスを分析できた。本研究の社会的意義は、持続的観光における解決策を提示することができた。具体的には、まず、持続可能な観光の実現や地域活性化に向けた取り組みを提案することができた。次に、地域住民と観光客の関係改善について提案することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to present positive solutions for sustainable tourism based on the awareness of residents toward tourism during the COVID-19. Specifically, based on data from social media and questionnaires, we proposed a problem-solving method with positive emotions for both tourists and residents. First, we applied SDL (Service Dominant Logic) to the tourism sector, and second, we analyzed resilience during the COVID-19. As a result of the study, we quantitatively demonstrated that keywords expressing "co-creation" generate more positive emotions. Second, we found that people are practicing methods in real situations that lead to new activities even in difficult situations.

研究分野：観光分野

キーワード：観光 地域住民 肯定的解決策 コロナ禍 レジリエンス オーバーツーリズム サービスドミナントロジック

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

観光客の観光地での異文化との交流も含めた活動・経験は、社会生活、余暇生活、文化生活などのさまざまな生活領域において肯定的な影響に寄与する。一方では、観光地の住民にとっても経済的な利益のみならず、新しい交流となっている。すなわち観光客や住民にとって主観的なQOLを向上させる要因であると考えられる。日本では観光産業の活性化に向けて様々な政策が提案されているが、観光客が多すぎると観光地ではオーバーツーリズムと呼ばれる現象が発生している。具体的には、荷物を抱えた観光客がバス停に駆けつけ混雑が発生し、地域住民の通勤・通学に影響を与えるなど、日常生活への弊害が発生している。これらの影響により、観光客と居住者の間に対立が生じており、日本語では「観光公害」と呼ばれる場合もある。さらにコロナの蔓延に伴って、観光活動が停止したことにより、観光産業に大きな影響を与えていた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、SNS データや用いてオーバーツーリズムと呼ばれる現象を調査し、そのデータの自然言語解析を通して、肯定的な感情から推測される前向きな解決策を提案することであった。さらに、令和2年から3年間に渡るコロナの影響は、観光産業や観光活動に大きな影響を与えてきた。特に、コロナ禍の日本において観光振興策として実施された活動が、逆にコロナの蔓延を広げる結果となるなど、観光活動としては非常に困難な時代に直面した。本研究では、実施前に想定していなかったコロナ禍という課題に対する観光に対する考え方の変遷や、観光活動の評価なども目的として追加した。最終的に、持続的観光を実現するための肯定的な要素を抽出することを目的としている。

## 3. 研究の方法

幅広く利用されている SNS である Twitter から REST API を利用してデータを収集した。このデータに対して、形態素解析を行い、意味の中心的な用語となる動詞、名詞、および形容詞などのキーワードを抽出した。キーワードに含まれる肯定的な単語、否定的な単語群を辞書として構成し、注目する単語に対する肯定的な感情、否定的な感情の分類を検討した。さらに、注目する単語との共起関係や単語間の近さなどを抽出した。特に、コロナ禍のような危機的な状況における人間活動としてのレジリエンスに注目し、その活動の形態について議論した。また、観光を含む社会活動を活性化する試みについても、共創的な単語との共起関係などに注目し議論した。個々の実証的な研究テーマについて、共起関係だけではなく、n-gram 法を使って単語間の近さなどから、単語の持つ傾向や意味を議論した。また、3年間にわたる Twitter での表現から、時系列での感情の変化を線形判別分析(Linear Discriminant Analysis, LDA)を利用して、トピックを抽出した。

## 4. 研究成果

本研究では、以下のような成果を達成することができた。

### (1) 経営的な視点からの観光活動へのアプローチ

経営分野で注目されている SDL(Service Dominant Logic)に注目し、観光分野に適用することにより、サービスを中心とした視点を導入することができた。特に“観光”の活動を“共創”によるサービスの提供とし、地域住民と観光客が観光活動をともに創り出すことによる満足感を評価した。本研究では、“共創”を表現するキーワードが、観光に対する肯定的な感情を生み出すことを定量的に実証することができた。

### (2) コロナ禍における困難な状況における観光活動へのアプローチ

観光を意識している人に対するコロナ禍におけるレジリエンスに注目した。コロナ禍において観光活動が大きく制限されている状況の中で、人々がどのような考え方で観光に対する回復を考えているかを抽出した。下の図1（文献）のように、レジリエンスのタイプを分類し、定量的に解析をした（図4（文献））。SNSにおいて、共創的な単語として“支援”、“応援”および“勧める”に注目し、コロナの流行の度合いと、それらの単語の全Tweetsに対する割合を示し、共創的な言葉が観光に関して積極的に応援する感情を表現していることを抽出できた。特に、プリコラージュの概念に注目し、大きな環境の変化における人間活動の活性化について定量的に評価した。プリコラージュでは、困難な状況下において、習慣的に利用されてこなかった“手段”が選択される。このような新しい活動に繋げる手法が現実の場面で実践されていることを抽出し定量的に実証した。プリコラージュのように個人の活動に注目し、困難を克服することが、観光の分野で発展的に広がることを抽出した。

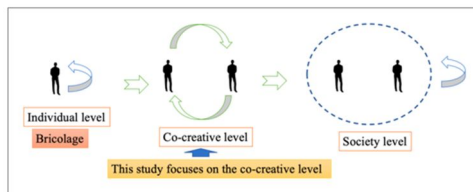


FIGURE 1. Proposed classification of resilience

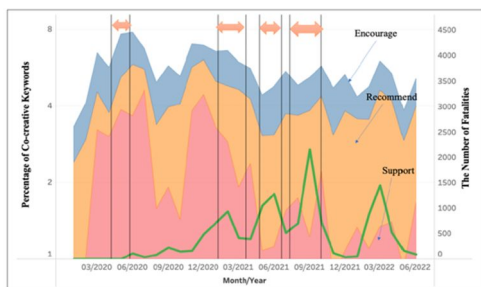


FIGURE 4. Frequency of co-creative keywords in relation to COVID-19 infections and fatalities

（文献）Soji Lee, Positive Actions as Forms of Resilience for Tourism during COVID-19, *International Journal on Innovative Computing, Information and Control ICIC Express Letters Part B: Applications*, Volume 14, Number 10, pp.1087-1094, October 2023

### （3）学生へのアンケートからの観光への認識

所属する大学の学生へ「コロナ禍における東海大生の観光意識調査」と題したアンケート調査を実施した。観光は学生にとっても日常生活の身近な習慣であり、多くの学生がコロナ後の観光客の増加を望んでおり、肯定的な感情を示していた。多くの学生は、観光開発がインフラを改善し、観光産業での雇用機会を増やし、文化遺産と自然環境への関心を高めることに賛同しており、持続的な観光へ希望を持っていることがわかった。

### （4）コロナ後の日本における観光活動の課題

コロナ後の観光産業の課題となっている労働者不足の問題と、マスク着用に関する日本人の感情的な問題、について議論した。特に日本の独特なマスク着用文化について、若者や観光客の未着用への否定的な意見について議論した。また、日本の文化的な特徴により観光活動を阻害する要因になることを指摘した。さらに、SNSの解析により、日本の観光の持続可能な発展を妨げる要因を定量的に分析した。

### （5）社会資本の概念から観光活動を分析

社会資本の概念を観光活動に適用させ、社会資本の要素となる地域コミュニティ、規範などの視点から観光を分析した。また、社会資本と観光の魅力となっている日本の文化の関係を調査した。地域コミュニティによる日本文化の継承は、観光活動の活性化につながることを示した。また、地域コミュニティをボンディング型とブリッジング型に分類し、その特性を調査した。その結果、ボンディング型は地域内で強い結びつきを持ち、ブリッジング型は地域外の都市との接点が強いことを示した。これらの解析により、地域の特徴による観光活動のタイプについても検討することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Soji Lee	4. 巻 Vol. 13, No. 7
2. 論文標題 Extraction method of bricolage actions for tourism during COVID-19	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal on Innovative Computing, Information and Control ICIC Express Letters Part B: Applications	6. 最初と最後の頁 741-748
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji Lee	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 The Necessity for Co-creative Actions in Tourism during the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Advanced Research in Social Sciences	6. 最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji LEE	4. 巻 31
2. 論文標題 A Survey of the Tourism-Related Awareness of Students During the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Civilizations (『文明』), International Journal of the Institute of Civilization Research, Special Issue of New Cultural Environment	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji LEE, Takuo NAKASHIMA	4. 巻 31
2. 論文標題 Existence and Activation of Tacit Knowledge in Tourism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Civilizations (『文明』), International Journal of the Institute of Civilization Research, Special Issue of New Cultural Environment	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji Lee	4. 巻 -
2. 論文標題 Over Tourism Classification for Sightseeing Areas in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the 3rd International Conference on Research in Social Sciences and Humanities (ICRSH)	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji Lee	4. 巻 -
2. 論文標題 The Feelings of Co-creative Actions for Tourism during the Covid-19 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th International Conference on Modern Approach in Humanities and Social Sciences (ICMHS)	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji LEE	4. 巻 29
2. 論文標題 Structure of Bricolage Actions Using Tacit Knowledge during COVID-19	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Civilizations (『文明』), International Journal of the Institute of Civilization Research	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soji LEE, Takuo NAKASHIMA	4. 巻 29
2. 論文標題 Time Perspective and Resilience During COVID-19	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Civilizations (『文明』), International Journal of the Institute of Civilization Research	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Soji Lee
2. 発表標題 Positive Actions towards Tourism Destination during COVID-19
3. 学会等名 16th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Soji Lee and Takuo Nakashima
2. 発表標題 Revitalization of International Tourism after COVID-19
3. 学会等名 16th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Soji Lee
2. 発表標題 Over Tourism Classification for Sightseeing Areas in Japan
3. 学会等名 3rd International Conference on Research in Social Sciences and Humanities (ICRS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Soji Lee
2. 発表標題 The Feelings of Co-creative Actions for Tourism during the Covid-19 Pandemic
3. 学会等名 4th International Conference on Modern Approach in Humanities and Social Sciences (ICMHS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Soji Lee
2. 発表標題 Extraction Method of Bricolage Actions for Tourism during COVID-19
3. 学会等名 15th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Soji Lee and Takuo Nakashima
2. 発表標題 Analyzing Method of Time Perspective Expression during COVID-19
3. 学会等名 15th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	中嶋 卓雄  (nakashima takuo)  (90237256)	東海大学・理系教育センター・特任教授   (32644)	定年により、令和4年度までの活動に限定される。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------